

**地方独立行政法人大阪府立病院機構
第3期中期目標期間の業務実績に関する評価結果**

第3期(平成28年4月1日～令和3年3月31日)

令和3年8月

大阪府

目次

1 全体評価	2ページ
2 参考資料	4ページ
3 大項目評価	
第1「府民に提供するサービスその他の業務の質の向上」	5ページ
第2「業務運営の改善及び効率化」	19ページ

1 全体評価

新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、全体として目標どおり達成している。

- 地方独立行政法人大阪府立病院機構は、大阪府の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び府域における医療水準の向上を図り、もって府民の健康の維持及び増進に寄与することを目的に設立された法人であり、医療の提供、医療に関する調査及び研究並びに技術者の研修等の業務を行うことにより、担うべき役割の着実な実施に努めた。
第3期中期目標期間においては、新公立病院改革ガイドラインを踏まえつつ、医療の提供体制を強化し政策医療及び高度専門医療を充実させるとともに、府域の医療水準の向上を目指し、地域連携の強化に取り組んだ。また、業務運営の改善及び効率化に向け、法人全体の経営マネジメントの強化を図るとともに、環境の変化に対応した病院機能の強化に努めた。
また、新型コロナウイルス感染症について、国内における流行早期の段階から患者を受け入れ、府内最大規模の病床を確保するほか、重症患者用に急遽整備された大阪コロナ重症センターを運営するなど、大阪府の要請に機動的に対応し、大阪府の新型コロナウイルス感染症対策の先導的な役割を担った。
こうした法人の活動は大いに評価できる。

- **第1『府民に提供するサービスその他の業務の質の向上』**

各センターの専門性を発揮した質の高い医療を提供するとともに、新型コロナウイルス感染症をはじめとする医療需要の変化や新たな医療課題に的確に対応した。高度専門医療の充実や府域の医療水準向上のため、医療スタッフの確保や育成、高度医療機器の計画的な整備、地域連携の充実強化などに努めた。また、待ち時間の縮減や院内環境の整備など、患者満足度の向上のための取組を行った。

(特筆すべき取組み)

〔高度専門医療の提供及び医療水準の向上〕

- ・ 大阪急性期・総合医療センターでは、基幹災害拠点病院として災害医療訓練やDMAT研修を実施、高度救命救急医療体制を強化、急性期から回復期までの一貫したリハビリテーション医療を提供するための体制を強化、大阪府市共同 住吉母子医療センターの供用を開始、新型コロナウイルス感染症重症患者の受入れを実施、クラスター発生病院を支援、大阪コロナ重症センターを運営。
- ・ 大阪はびきの医療センターでは、多剤耐性結核患者や重篤な併存疾患のある患者等に対する高度専門医療を提供、大阪府アレルギー疾患医療拠点病院として専門医療の提供や普及啓発を実施、救急受入拡大のための取組を実施、地域医療支援病院の承認を受け地域連携を強化、新型コロナウイルス感染症重症・中等症患者の受入れを実施、医療機関等にクラスター発生予防の研修を実施。
- ・ 大阪精神医療センターでは、措置入院・緊急措置入院患者等の受入れを実施、発達障がいの確定診断を実施、診断ができる医師を育成するための制度を創設、大阪府依存症治療拠点機関として、薬物・アルコール・ギャンブルの各依存症治療プログラムや依存症医療研修を実施、新型コロナウイルス感染症患者の受入れを実施。
- ・ 大阪国際がんセンターでは、都道府県がん診療連携拠点病院として、難治性、進行性、希少がん患者も含め集学的治療を実施、がんゲノム医療拠点病院の指定を受けがんゲノム医療を提供、重粒子線センターとの連携のため共通診察券を発行する等の取組を実施。
- ・ 大阪母子医療センターでは、総合周産期母子医療センターとして新生児や胎児に対する高度専門医療を提供、小児救急救命センターとして重篤小児患者受入体制を強化、大阪府移行期医療支援センターを設置し小児慢性疾患患者への支援を実施、新型コロナウイルス感染症の小児重症例の受入体制を整備。
- ・ 熊本地震や新型コロナウイルス感染症発生に伴いDMAT及びDPATを派遣。

- ・優れた医療スタッフの確保、資格取得の推進、高度医療機器の計画的な整備・活用、地域医療機関との連携強化などを実施。
- ・医療事故等の分析や再発防止の取組み、院内感染対策の充実など医療安全対策等を徹底、最適な医療の提供のためクリニカルパスを適用、セカンドオピニオンやがん相談支援を充実。

〔患者・府民の満足度向上〕

- ・外来及び入院について患者満足度調査を実施、患者満足度向上のため各病院においてマニュアル整備や接遇研修、院内環境整備を実施。
- ・外来待ち対策として、待ち時間が長い患者への声かけ、呼び出しサービスの運用、診療待ち状況システムの導入、後払いクレジット決済システムの運用などによる会計待ち時間改善の取組みを実施。

● 第2 『業務運営の改善及び効率化』

理事長のリーダーシップのもと柔軟な組織運営、ワークライフバランスに配慮した職場環境の整備、コンプライアンスの徹底のための取組みなど、業務運営の改善に努めている。また、地域医療機関との連携強化による新入院患者の確保、効率的なベッドコントロールによる医業収入の拡大や、給与費の適正化や材料費の縮減による費用節減など、経営改善のための取組みを進めている。

(特筆すべき取組み)

〔自律性・機動性の高い組織体制の確立〕

- ・働きやすい職場環境整備のための多様な勤務形態の運用、診療科及び組織体制の再編、コンプライアンスの推進のための通報窓口の設置などを実施。

〔経営基盤の安定化〕

- ・地域医療機関との連携強化による新入院患者の確保、診療・看護体制の充実や施設基準の積極的な取得による診療単価の向上など、収入の確保のための取組みを実施。
- ・SPDによる医薬品等の共同購入による材料費の削減、患者需要や費用対効果等を踏まえた人員体制の整備による給与費の適正化など、費用抑制の取組みを実施。

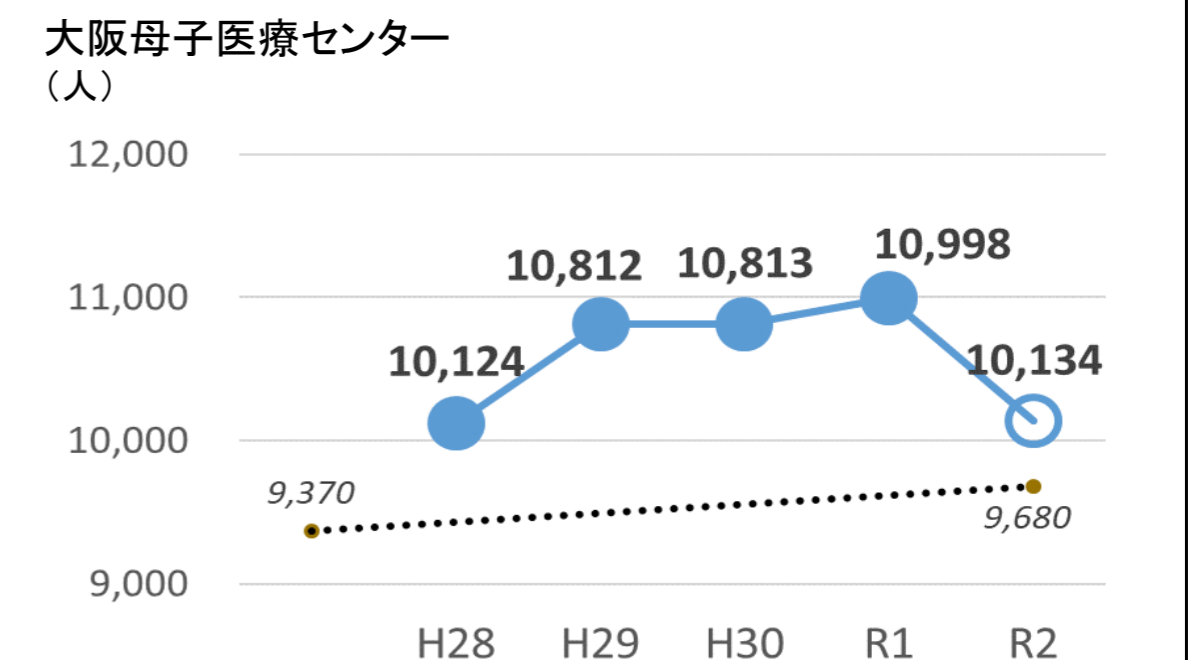
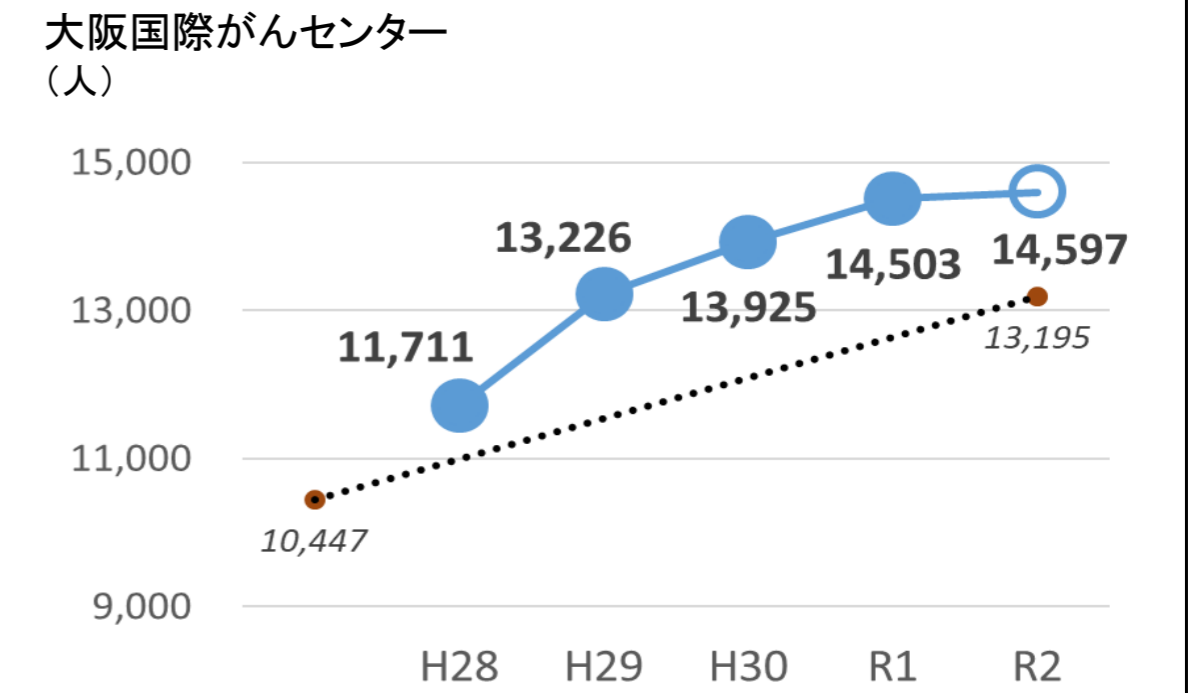
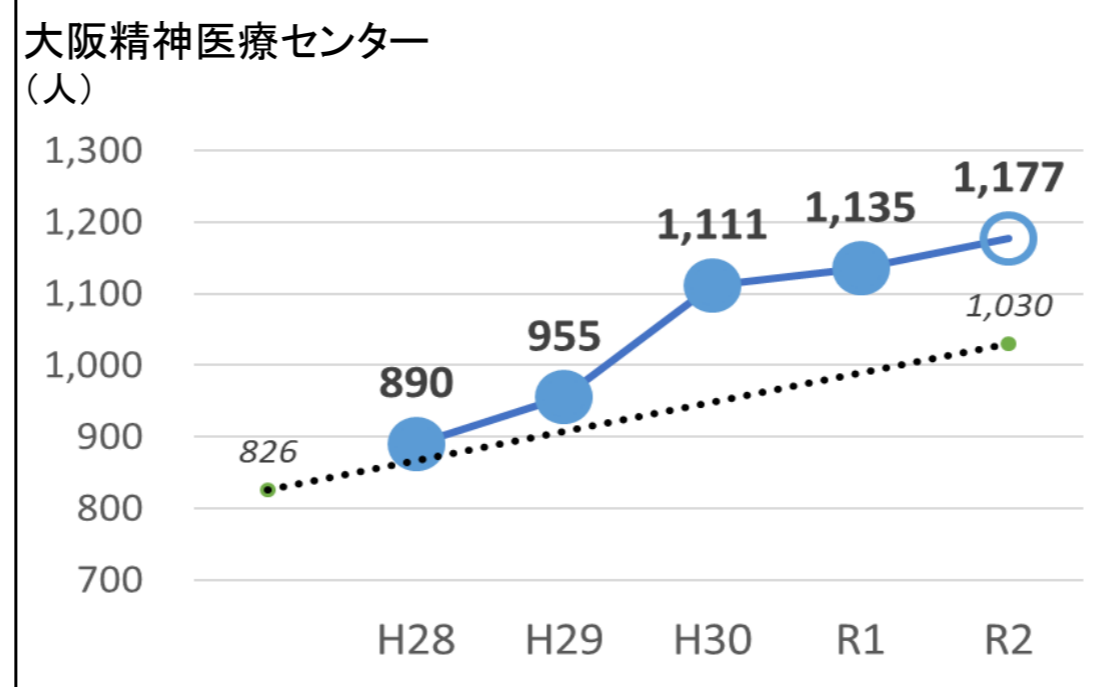
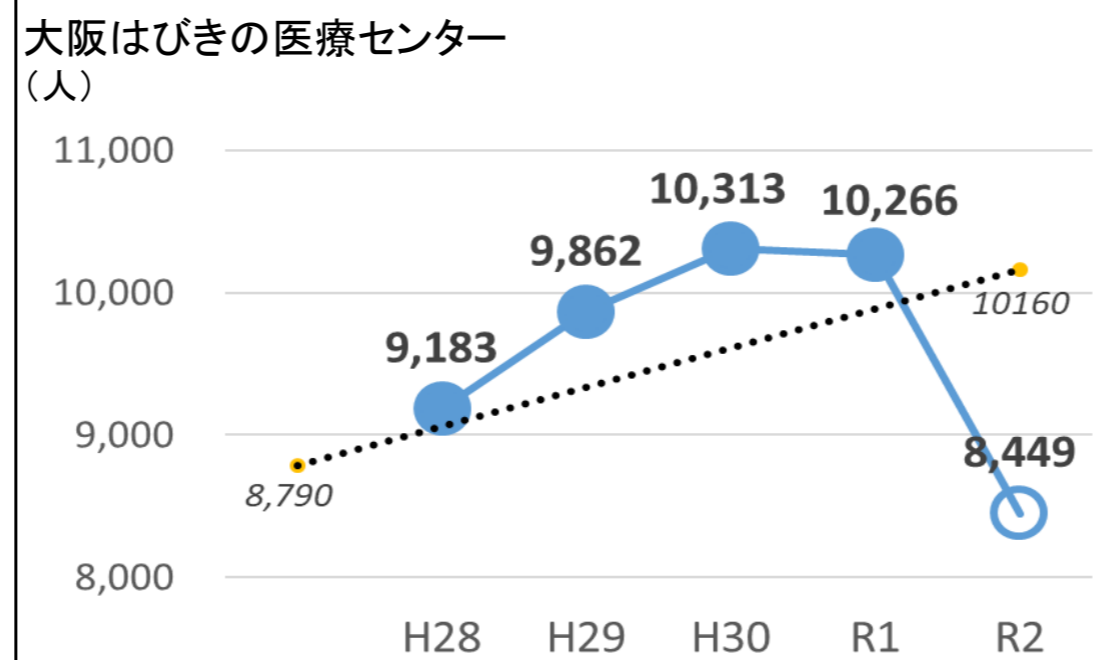
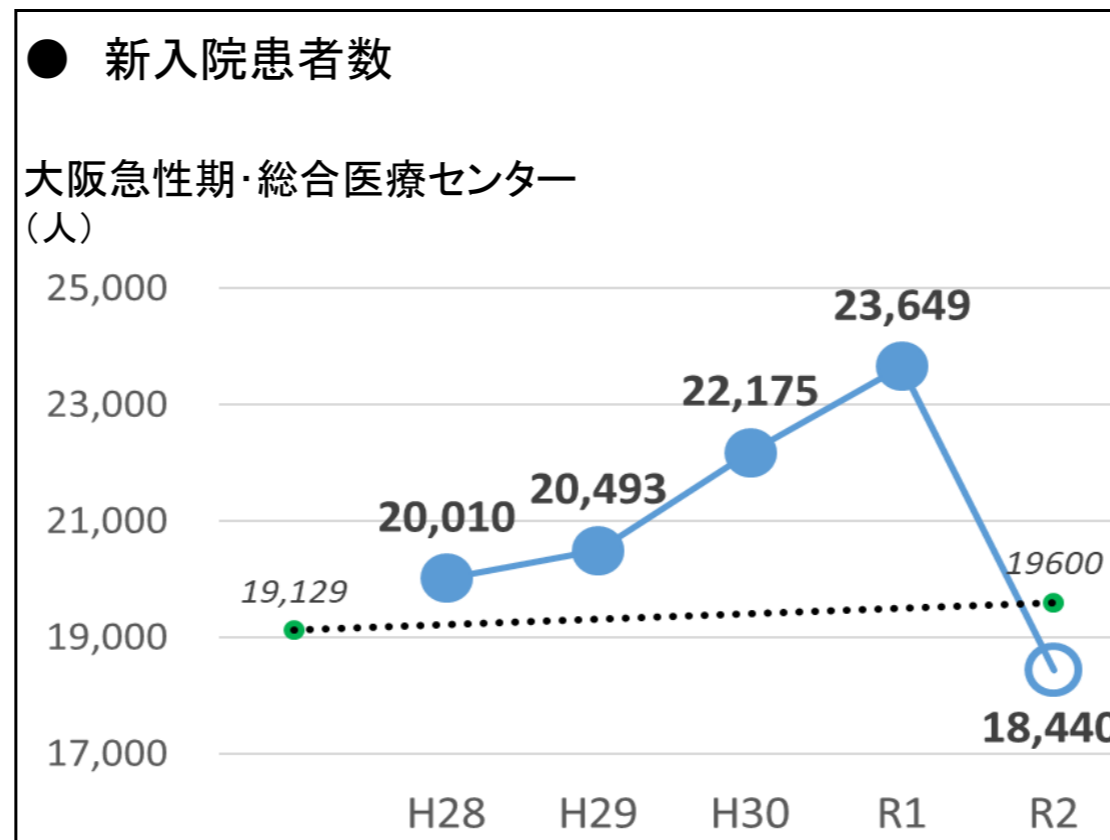
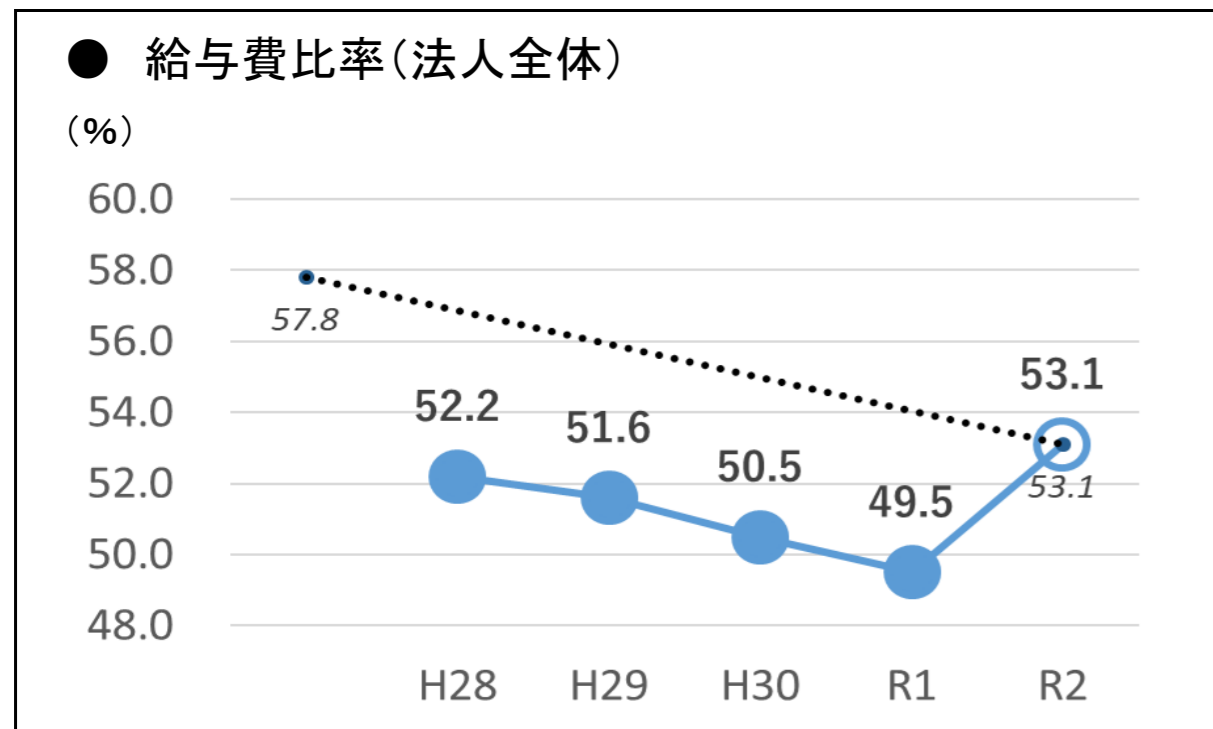
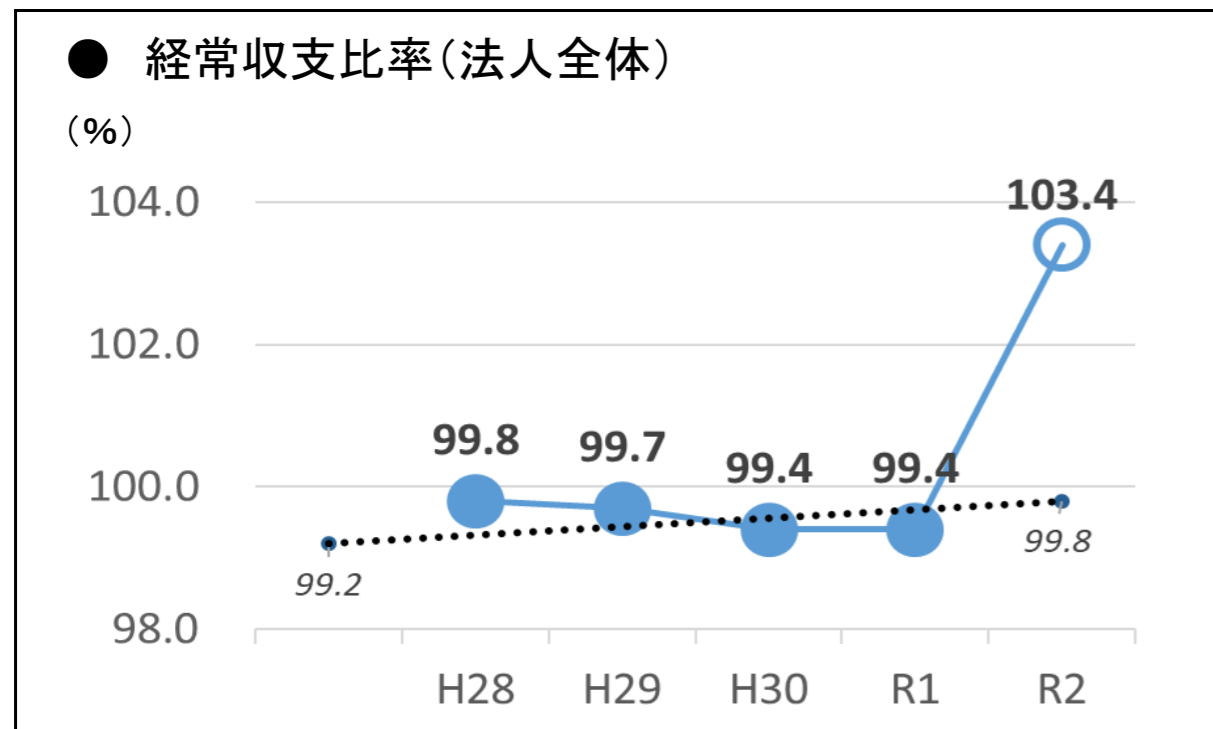
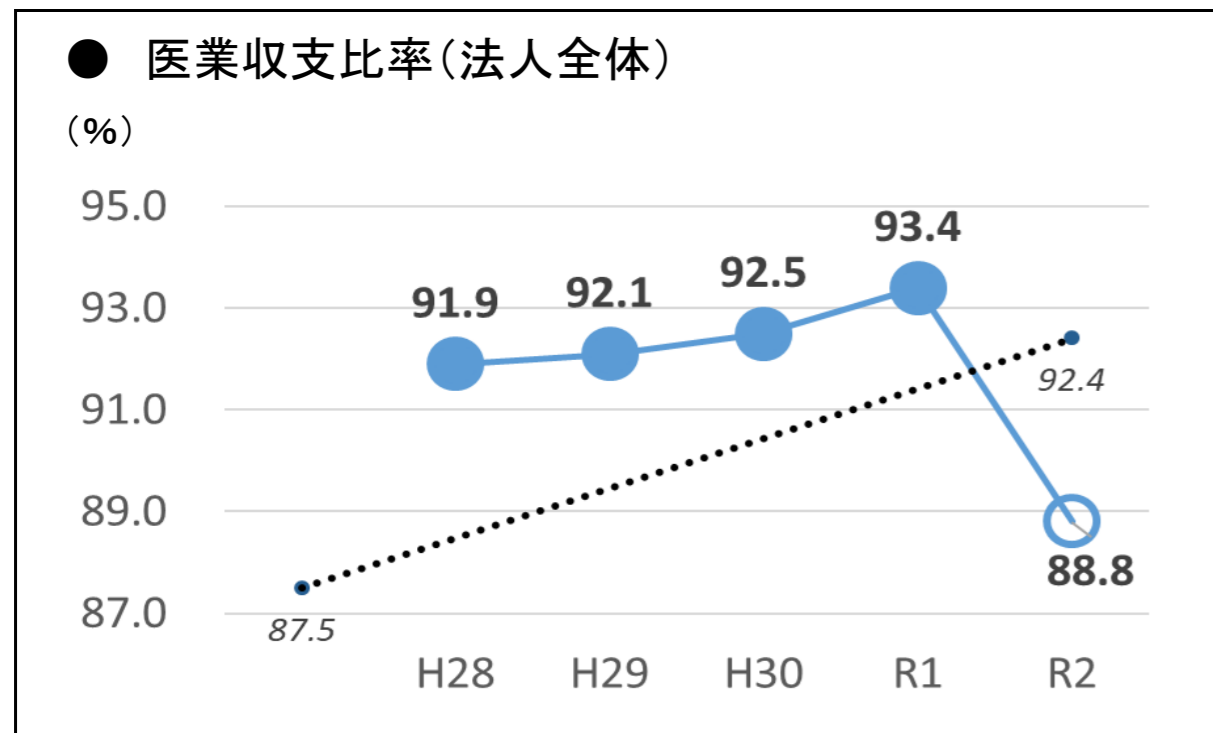
評価にあたっての意見、指摘等

第3期中期目標期間においては、高度専門医療を提供し、府域における医療水準の向上を図るとともに、大阪府の新型コロナウイルス感染症対応に関して、先導的な役割を果たした。同感染症患者の受入れや受診控えの影響などにより、第3期中期計画に定めた最終的な目標値を達成できなかった項目はあるものの、パンデミックという国難に対峙しつつ、大阪府民のために最大限取り組んでいることは高く評価できる。引き続き、高度専門医療の提供や府域における医療水準向上に取り組むとともに、同感染症対応にあたっては、大阪府及び関係機関と連携しながら、府域における中核的医療機関として先導的役割を担ってほしい。

また、今後、施設や医療機器の老朽化対策等により経営が圧迫されることも想定されるため、新型コロナウイルス感染症の流行収束後も見据え、一層の経営改善に取り組むとともに、国や地方全体をあげての地域医療構想の推進や、医師・医療従事者の働き方改革、医師偏在対策などの動きにも的確に対応してほしい。

2 参考資料

●—● 実績値の推移 ●.....● 中期計画(H26年度実績値—R2年度目標値)



● 患者満足度調査

全体としてこの病院に満足している割合(入院) (単位:%)

センター名	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
急性期C	—	76.0	89.2	87.7	91.2
はびきのC	—	95.3	96.7	97.3	96.1
精神C	—	75.9	72.1	80.3	77.2
国際がんC	—	92.6	91.2	97.1	95.8
母子C	—	75.9	95.8	89.8	91.6

全体としてこの病院に満足している割合(外来) (単位:%)

センター名	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
急性期C	72.4	70.6	68.2	70.1	78.6
はびきのC	86.0	82.3	85.0	81.6	85.2
精神C	86.1	79.9	84.9	81.6	83.7
国際がんC	87.8	84.3	85.5	87.8	90.6
母子C	87.0	86.5	83.6	86.7	82.2

※ 各指標のR2年度実績には大阪コロナ重症センターの実績は含まない。

3 大項目評価

第1 府民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項		事業年度評価結果					中期目標期間評価
		H28	H29	H30	R1	R2	
中期目標	中期計画	A	A	A	A	A	A
<p>1 高度専門医療の提供及び医療水準の向上 (1) 府の医療施策推進における役割の発揮 ① 各病院の役割に応じた医療施策の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型インフルエンザ等の新たな感染症対策における、府域の医療機関の先導的役割 ・ 高度救命救急センターとして基幹的な役割、重篤小児患者や未受診妊産婦等の積極的に受入れの推進 ・ がんの集学的治療の提供や緩和ケア医療の推進等、府のがん医療全般における先導的役割 ・ 府域における高度周産期医療の拠点病院としての役割 ・ 地域の医療機関や保健所との連携強化 ・ 発達障害等子どもの心の問題に対する診療機能の強化、府域の医療機関の先導的役割 ・ 府域における精神医療の拠点病院としての役割、薬物等の各種依存症に対する治療と治療後の回復支援 ・ 隣接の重粒子線がん治療施設との連携等による先進的ながん医療の提供 ・ 新たに整備した施設の活用による、高度な医療の提供、患者受入れの充実 <p>② 診療機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療需要の質的及び量的な変化や新たな医療課題に即した診療部門の充実及び改善 ・ 各病院の医療水準の向上や国内外への貢献 	<p>1 高度専門医療の提供及び医療水準の向上 (1) 府の医療施策推進における役割の発揮 ア 大阪急性期・総合医療センター ① 役割に応じた医療施策の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹災害医療センターとして、府域の災害拠点病院への支援機能、府域の災害対応に人材を派遣、大阪DMATの人材育成に関する中心的な役割 ・ 高度救命救急センターとして、救命救急医療、高度循環器医療、周産期救急医療等急性期医療の提供 ・ 地域がん診療連携拠点病院として、合併症を有する難治性、進行性がんをはじめとする総合的ながん医療の提供 ・ 心疾患・脳血管疾患、糖尿病・生活習慣病、腎移植や難病医療の拠点病院としての専門医療の提供 ・ 精神科における合併症患者の受入れや総合的な合併症患者への医療の提供 ・ 急性期から回復期までの一貫したリハビリテーション医療、障がい者医療の提供 ・ 医師の卒後臨床研修等の教育研修 <p>② 診療機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 南大阪地域の救命救急の中核的医療機関として、ER部の充実等救命救急部門の体制強化 	<p>[実績] <大阪急性期・総合医療センターにおける医療施策の実施></p> <p>■府域の災害拠点病院への支援機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30年度の大阪府北部地震をふまえ、亜急性期に関する訓練を大阪府等と実施【H30年度】 ・ 救急医療の発展に貢献することを目的とし、ハイブリッドERシステム研究会を9施設とともに立ち上げ【H30年度】 ・ 住吉区防災訓練において、地域の医療機関と連携した災害時クラウド型情報システム(ICAS)の運用開始【R1年度】 ・ 政府が実施する総合防災訓練では、他施設との共同訓練や、災害協力病院への講義等を実施 ・ 毎年度継続した大阪DMAT研修の実施 ・ 新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生病院への支援活動【R2年度】 <p>■急性期医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NICU受入れ可能週数を30週から28週に引き下げる体制を整備【H30年度】 ・ 一次脳卒中センター(PSC)の認定【R1年9月】 <p>■専門医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がんゲノム医療連携病院に指定【R1年10月】 ・ 血液・腫瘍内科を開設、進行がんの増加に対応するため、無菌室を2床増設【H28年度】 ・ 経皮的僧帽弁接合不全修復システム(Mitra Clip)実施医療機関の認定【H31年1月】、TAVI専門施設の認定【R1年10月】 ・ かかりつけ医、地域ケア担当とともに、難病患者への訪問実施 <p>■精神科における合併症患者の受入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体合併症患者についても積極的に受け入れ、透析患者や認知症患者についても積極的に受け入れを実施 ・ せん妄・精神疾患合併等のある新型コロナウイルス感染症患者への病棟往診【R2年度】 <p>■リハビリテーション医療、障がい者医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 急性期から日常生活の復帰まで一貫したリハビリテーション医療を提供するため、総合リハビリテーションセンターを設置【R1年度】 ・ 12階東病棟において、理学療法士と作業療法士による土日のリハビリテーションを開始【R2年度】 <p>■医師の教育研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師の卒後臨床研修への積極的な取組を実施 <p>■救命救急部門の体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小児救急症例を小児科が診療する体制を整備し、一般救急の受入体制を拡充することで救急救命部門の体制を強化 					

(単位:人)

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
救急車搬入患者数	7,772	8,005	8,877	9,872	5,629
三次救急新入院患者数	2,140	2,090	2,267	2,464	1,746
TCU(18床)新入院患者数	1,242	1,298	1,399	1,587	989
SCU(6床)新入院患者数	445	406	467	437	375
CCU(6床)新入院患者数	453	386	401	440	382

- ・ がん医療の質とがん患者のQOL向上を図るため、鏡視下手術等の低侵襲医療を更に推進並びに、がん医療の全ての過程における効果的なリハビリテーションの実施

- ・ 臓器移植について、HLA(ヒト白血球型抗原)やリンパ球交叉試験等の適合検査を実施、移植臨床センターとしての機能強化並びに腎代替療法において、腹膜透析の推進

- ・ 地域周産期母子医療センターとして受入れ拡充のための体制強化

- ・ 精神科病棟への比較的重症な身体合併症患者の積極的受入れ

- ・ 難治性糖尿病について、糖尿病の専門医療機関としての機能充実

イ 大阪はびきの医療センター

① 役割に応じた医療施策の実施

- ・ 難治性の呼吸器疾患に対する専門医療の提供

- ・ 多剤耐性結核患者等に対する専門医療の提供

■がん医療における低侵襲医療の推進並びにリハビリテーションの実施

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
術前から登録されたがん周術期リハビリテーション実施率(%)	25.5	23.0	22.0	22.5	20.7
腹腔鏡下初期子宮体癌手術(件)	13	16	13	21	15

■臓器移植の機能強化

- ・ 腎臓・高血圧内科独自HPの開設等の取組により、腎代替療法選択外来の受診率が増加

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
腎移植(件)	21	17	19	19	28
腹膜透析新規導入患者数(人)	11	15	10	10	3

■地域周産期母子医療センターとして受入れ拡充のための体制強化

- ・ 大阪府市共同 住吉母子医療センター開設【H30年4月】

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
新棟新入院患者数(人)	-	-	4,408	4,878	3,721
分娩件数(件)	750	805	1,178	1,315	1,291

- ・ 小児・周産期における新型コロナウイルス感染症患者の治療対応【R2年度】

■精神・身体合併症の積極的な受入れ

- ・ (再掲)身体合併症患者についても積極的に受け入れ、透析患者や認知症患者についても積極的に受け入れを実施

■難治性糖尿病診療

- ・ 妊婦糖尿病症例、糖尿病合併症妊婦症例に積極的に介入

■臨床研究の推進

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
医師主導型臨床研究件数(件)	111	140	157	128	155

■ICTを用いた地域医療連携の取組

- ・ 「万代e-ネット(診療情報地域連携システム)」やインターネット予約システムについて、地域医療機関の参加を促進

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
ICTを用いた地域医療連携登録医数(施設)	198	226	256	275	301

<大阪はびきの医療センターにおける医療施策の実施>

■呼吸器・アレルギー医療の基幹病院としての取組

- ・ 在宅酸素療法導入患者に対する積極的なリハビリ介入
- ・ 呼吸器専門外来を設置し、患者のセルフマネジメントの向上から、在宅での呼吸器ケアの支援まで一貫した専門医療の提供

- ・ 感染症センターにおける多剤耐性結核患者や重篤な併存疾患のある患者に対する診療の実施
- ・ 新型コロナウイルス感染症患者に対する診療の実施【R1年度～】

- ・ 気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー等に対する専門医療の提供

- ・ 呼吸器疾患、結核及びアレルギー性疾患の合併症に対する専門医療の提供
- ・ 悪性腫瘍疾患患者に対する診断から集学的治療、緩和ケアまでの総合的な医療の提供

② 診療機能の充実

- ・ 呼吸ケアセンターとして、急性期から慢性期まであらゆる病態のカバー
- ・ 救急、在宅医療の後方支援や、呼吸器リハビリテーション機能の強化等診療体制の充実

- ・ 感染症指定医療機関として、感染症に対する診療機能の充実

- ・ アトピー・アレルギーセンターとして、診療体制の強化及び機能の拡充

- ・ 腫瘍センターとして、早期診断から集学的治療までの診療体制の強化及び機能の拡充

- ・ 周辺医療機関との感染対策ネットワークを充実させ府域の院内感染対策に貢献

- ・ アトピー・アレルギーセンターにおいて、複数診療科の連携によるアトピー・アレルギー疾患に対する専門医療の提供

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
重症アトピー性皮膚炎患者に対する処置件数(件)	9,524	11,174	10,528	11,161	10,739
食物チャレンジテスト実施件数(件)	1,319	1,271	1,275	1,399	949

- ・ 大阪府アレルギー疾患医療拠点病院に指定【H30年6月】

- ・ 腫瘍センターにおいて、肺がんをはじめとする悪性腫瘍疾患患者に対して集学的治療を実施

■呼吸ケアセンターにおける取組

- ・ 在宅酸素療法の推進、在宅酸素療法患者へのリハビリ介入やアドバンス・ケア・プランニングの取組など、慢性期呼吸器不全に対する円滑な在宅移行を見据えた、きめ細かい専門医療の提供

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
在宅酸素療法新規患者数(人)	140	126	155	127	144
在宅人工呼吸器使用患者数(年度末人数)	42	37	40	31	32

- ・ 救急受入れを拡大するため、内科を標榜し、近隣の消防署訪問や救急隊との意見交換を実施【H30年度】。また、平日に日中帯における循環器救急の受入れ【R1年度】、月曜日の夜間帯における循環器救急及び水・金曜日の準夜帯における小児救急を開始【R2年度】

■感染症センターにおける取組

- ・ 二類感染症患者発生時に備え、外来感染症診察室の整備や、マニュアルの見直し、アイソレーター車椅子の点検等を実施
- ・ 医療機関、高齢者施設、調剤薬局等に対して、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生予防のための研修を実施【R2年度】

■アトピー・アレルギーセンターにおける取組

- ・ 小児科を中心に、急速経口免疫療法その他施設共同研究へ積極的に参画
- ・ スギ花粉ペプチド含有米を使った臨床研究の取組を推進
- ・ 民間企業と連携し、乳酸菌と花粉症の関係性について、共同研究を実施【R2年度】

■腫瘍センターにおける取組

- ・ 肺がん等の胸部悪性腫瘍に対し、集学的治療、緩和ケアまで一貫した治療の推進
- ・ 身体的負担の少ない、低侵襲な胸腔鏡手術、放射線治療の適用増

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
肺がん新入院患者数(人)	1,271	1,552	1,682	1,553	1,181
肺がん手術件数(件)	158	155	160	169	132

■府域の院内感染対策

- ・ 連携医療機関に対し、感染症の診療や、手術室の手洗い設備や機材の適切な管理について指導及び提案するなど、府域の院内感染対策の向上に寄与

ウ 大阪精神医療センター

① 役割に応じた医療施策の実施

- ・ 措置入院、緊急措置入院、救急入院等急性期にある患者に対する緊急・救急医療並びに症状が急性期を脱した患者に対する退院までの総合的な医療の提供
- ・ 激しい問題行動を伴う難治性症例、薬物等の中毒性精神障がい等の患者に対する高度ケア医療の提供
- ・ 医療型障がい児入所施設として、自閉症患者（自閉症児）の受入れ
- ・ 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（平成15年法律第110号。以下「医療観察法」という。）に基づく入院対象患者の受入れ
- ・ 発達障がい者（発達障がい児）への医療の提供並びに早期発見及び早期治療に関する研究並びに専門医の育成

② 診療機能の充実

- ・ 福祉事務所や保健所等との適切な役割分担と連携を図り、専門性を発揮した訪問看護の取組を拡充するための体制整備等並びに在宅療養中の患者のケアの充実
- ・ 待機患児数の解消を目指した、発達障がいの診断初診外来の充実

■診療範囲の拡大

- ・ 耳鼻咽喉科の設置【H29年4月】
- ・ 消化器内科の再開【H30年8月】
- ・ 泌尿器科外来の設置【R2年4月】
- ・ 小児循環器外来の設置【R3年1月】

■地域連携の強化

- ・ ICTを用いた地域連携の取組として「はびきのメディカルネット」を導入【R2年度】
- ・ 大阪府より、地域医療支援病院として承認【R2年度】

<大阪精神医療センターにおける医療施策の実施>

■精神医療基幹病院としての取組

- ・ 緊急救急病棟において、措置入院・緊急措置入院患者の受入れ

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績	
措置患者等の受け入れ件数(件)	措置入院	15	20	35	28	18
	緊急措置入院	32	38	38	55	75
	応急入院	2	6	5	2	4

- ・ 民間病院で受入れが困難な難治症例などの薬物患者について、高度ケア医療の提供
- ・ 医療型障がい児入所施設として、自閉症児の受入れ及び確定診断の実施
- ・ 医療観察法病棟において、積極的な入院受入れを実施
- ・ 大阪大学・大阪府とともに、「発達障がいの子供への早期支援のための「気づき」・診断補助手法の実装」に関する共同研究を推進
- ・ 大阪府から発達障がい専門医療機関ネットワーク構築事業を受託し、発達障がい精神科医師への養成研修を実施

■訪問看護、デイケアセンターの取組

- ・ 枚方版アウトリーチプロジェクト実施
- ・ デイケアに独自の就労支援プログラムを導入

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
訪問看護実施件数(件)	5,152	5,083	5,208	5,128	5,170
デイケアセンター新規入所者数(人)	78	63	95	89	91

■児童・思春期患者への対応

- ・ 児童思春期科応援医・研修制度を創設し、発達障がいの診断ができる医師を育成【R1年度】

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
発達障がい診断初診件数(件)	252	229	223	233	196
発達障がい診断初診待機患児数(人)	147	131	119	67	53

- ・ 医療観察法の規定による対象者や薬物中毒患者等の依存症の患者、重度かつ慢性の患者等、より専門的なケアを必要とする患者を受け入れ、精神科救急の中核機関としての役割推進

エ 大阪国際がんセンター

① 役割に応じた医療施策の実施

- ・ がん医療の基幹病院として難治性、進行性及び希少がんをはじめ総合的ながん医療の提供

- ・ 特定機能病院として、高度先進医療の提供、新しい診断や治療方法の研究開発及び人材育成機能

- ・ 都道府県がん診療連携拠点病院として、がん患者や家族に対する相談支援や技術支援機能の向上及び医療機関ネットワークの拡充による地域医療連携の強化

② 診療機能の充実

- ・ がん医療の基幹病院として、総合的な医療とケアの提供、難治性・進行性・希少がん患者に対する、手術、放射線治療、化学療法等を組み合わせた最適な集学的治療の推進

- ・ 特定機能病院として、高度先進医療の提供並びに、新しい診断や治療方法の研究開発

- ・ 都道府県がん診療連携拠点病院として、府域の医療機関との地域医療連携強化

■ 専門的なケアを必要とする患者の受入れ

- ・ 医療観察法病床におけるクロザピン治療の普及及びm-ECTの活用
- ・ 府の依存症治療拠点機関として、薬物・アルコール・ギャンブルの各依存症治療プログラムや依存症医療研修の実施

■ 精神科救急の取組

- ・ 措置・緊急措置受入れについて24時間体制で実施、緊急救急病棟で措置・緊急措置入院対応の空きベッド1床以上を確保するベッドコントロールの推進

<大阪国際がんセンターにおける医療施策の実施>

■ がん医療の基幹病院としての取組

- ・ 都道府県がん診療連携拠点病院として、難治性、進行性、希少がん患者に対する手術、放射線治療及び化学療法など集学的治療の提供
- ・ 希少がんセンターを設置し、電話相談窓口「希少がんホットライン」を開設【R2年4月】

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
ESD内視鏡的粘膜下層剥離術(件)	748	779	795	828	783
EMR内視鏡的粘膜切除術(件)	1,079	1,324	1,492	1,463	1,142

- ・ 手術支援ロボット2台目導入や放射線治療装置の4台目導入など、高度医療機器による診療体制の充実

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
ロボット手術件数(件)	108	151	264	343	435

- ・ がんゲノム医療連携病院の指定【H30年3月～R1年9月】
- ・ がんゲノム医療拠点病院の指定【R1年9月】
- ・ 都道府県がん診療連携拠点病院として、大阪府がん診療連携協議会・各部会の開催
- ・ がん患者や家族に対する情報提供や相談支援の実施

■ 基幹病院としての取組

- ・ 患者一人一人の症例に最適な治療法を選択し、集学的な治療の推進、QOL向上に重点を置いた医療の提供

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
手術実施件数(件)	3,390	3,929	4,014	4,204	4,041
放射線治療件数(件)	31,109	35,016	35,587	35,407	31,920
新入院患者数(人)	11,711	13,226	13,925	14,503	14,597
1日あたり初診患者数(人/日)	28.1	36.3	35.8	36.2	32.6

■ 特定機能病院としての取組

- ・ 新規分子標的治療法や免疫療法の創薬研究に向けた体制整備
- ・ 腫瘍治療装置を開発、企業と共同で特許出願【H30年度】

■ 都道府県がん診療連携拠点病院としての取組

- ・ 都道府県がん診療拠点病院として、大阪府がん診療連携協議会や、各部会を毎年度継続して実施

- ・ 重粒子線がん治療施設等と相互に連携
- ・ 外国人患者への高度先進医療の提供及び外国人医療従事者への技術指導及び研修を実施するための体制整備

オ 大阪母子医療センター

① 役割に応じた医療施策の実施

- ・ 総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊産婦、疾病新生児・超低出生体重児に対する母体及び胎児から新生児に対する高度専門的な診療機能
- ・ OGCS(産婦人科診療相互援助システム)及びNMCS(新生児診療相互援助システム)の基幹病院としての中核機能
- ・ 小児がんに代表される小児難治性疾患や先天性心疾患に代表される新生児・乳幼児外科疾患に対する高度専門医療の提供
- ・ 高度な集中治療等重篤小児の超急性期を含む救命救急医療の提供
- ・ 高度専門医療を受けた小児及び家族に対する心のケア、子どもの心の診療機能の充実並びに在宅医療の機能強化
- ・ 発達障がい児への医療の提供、発達障がいの早期発見及び早期治療に関する研究の推進並びに専門医の育成

■重粒子線がん治療施設との連携

- ・ 放射線を用いたがん治療の研究に関する包括連携協定の締結【H30年8月】
- ・ 患者IDの共通化及び共通診察券の発行【H31年1月】
- ・ 連携強化のための運営事業連絡会議、拡大会議の定期的な実施

■外国人への対応

- ・ 外国人患者のスムーズな受入れを行うため、国際部を設置【H30年度～】
- ・ 電話医療通訳「メディフォン」の導入や、ホームページ、パンフレットの多言語化を実施
- ・ タイ王国タマサート大学・タマサート大学附属病院との国際医療交流協定の調印、他3件の調印【H28年度】
- ・ ロシア連邦モスクワ州立学術臨床研究所(MONIKI)との国際医療交流協定の調印【H29年6月】
- ・ ロシア連邦国立放射線医学研究センター(NMRRRC)との国際医療交流協定の調印【R1年6月】
- ・ 渡航外国人患者受入医療機関認証制度(JIH)の認定【R2年4月】

＜大阪母子医療センターにおける医療施策の実施＞

■母子・周産期医療の基幹病院としての取組

- ・ 総合周産期母子医療センターとして、新生児や胎児に対する手術などの高度専門医療を提供
- ・ OGCS・NMCS経由の重症妊婦・病的新生児の緊急搬送について、積極的な受入れを実施

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
1,000g未満の超低出生体重児取扱件数(件)	34	35	33	32	37

■高度な小児医療の提供

- ・ 先天性心疾患や横隔膜ヘルニアなどの小児の外科的疾患に対する高度な医療を提供
- ・ 小児慢性特定疾患など小児の慢性疾患に対する専門的医療の提供
- ・ 呼吸サポートチーム(RST)の設立による適切な人工呼吸管理の推進【R2年度】

■小児がん拠点病院としての取組

- ・ 近畿ブロック小児がん拠点病院協議会等の開催
- ・ 造血幹細胞移植法など、負担の少ない移植を推進

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
小児がん長期フォロー延べ患者数(件)	322	353	388	406	434

■重篤小児患者の受入れ体制の強化

- ・ 大阪府より小児救急救命センターの指定【H30年11月～】
- ・ 大阪府より二次救急告示医療機関に認定【R2年12月～】

■心のケア、在宅医療の機能強化

- ・ 高度なケアが必要な患者や家族からの相談に対し、専門スタッフと連携しながら対応
- ・ 在宅移行支援について、多職種カンファレンスを週1回開催
- ・ CAP委員会(小児虐待防止委員会)による、虐待事例等への対応

■発達障がい児に対する取組

- ・ 大阪府からの受託事業である「発達障がい専門医師養成研修事業」に引き続き取り組み、研修等を実施

- ・ 妊産婦や小児の疾患に関する新しい診断や治療方法の研究開発及び人材育成機能

② 診療機能の充実

- ・ OGCS(産婦人科診療相互援助システム)及びNMCS(新生児診療相互援助システム)の基幹病院としての役割を拡充し、府域における安定的な周産期医療体制の確保

- ・ 府域全体のPICU(小児集中治療室)としての機能を発揮する体制を構築並びに小児患者に対するチーム医療の推進

- ・ 高度小児医療機能の向上及び成人診療への移行の支援の充実

- ・ 研究所における新しい治療法の開発

■研究所の取組

- ・ 母性小児疾患総合診断解析センターとして原因不明の妊産婦および先天性等新生児・小児疾患に対して、系統的に診断・治療法の開発

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
国際学術誌発表論文(件)	36	45	30	40	33
学会発表(件)	40	59	46	46	25
外部資金獲得件数(件)	30	26	25	42	33

■総合周産期母子医療センターとしての取組

- ・ 産婦人科診療相互援助システム(OGCS)、新生児診療相互援助システム(NMCS)の基幹病院として、安定的な周産期医療の提供

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
母体緊急搬送受入件数(件)	256	232	201	195	209

■重篤小児に対する救急医療の充実

- ・ 麻酔科及び集中治療科レジデントの確保に取り組み、重篤小児に対する救急医療の充実

■高度な小児医療の提供(再掲)

- ・ 先天性心疾患や横隔膜ヘルニアなどの小児の外科的疾患に対する高度な外科的医療を提供
- ・ 小児慢性特定疾患など小児の慢性疾患に対する専門的医療の提供

■移行期支援の取組

- ・ 小児期発症の慢性疾患を有する子どもへの包括的な医療の提供
- ・ 子どもの発達段階に見合った自立支援とともに、シームレスな医療体制の提供の両面を実践するため、移行期医療支援センターを設置【H31年4月】

■研究所の取組

- ・ (再掲)母性小児疾患総合診断解析センターとして原因不明の先天性等新生児・小児疾患に対して、系統的に診断・解析を実施

■WHO指定研究協力センター

- ・ JICA関西などを通じた海外からの研修生受入事業を積極的に実施

<p>③ 新しい治療法の開発・研究等</p> <ul style="list-style-type: none"> 各病院における高度専門医療分野での調査や臨床研究及び治験の推進 大学等の研究機関や企業との共同研究など積極的に実施 大阪国際がんセンター及び大阪母子医療センターにおいて、疫学調査、診断技法及び治療法の開発並びに臨床応用のための研究推進 <p>がん登録事業等府のがん対策の基礎となる調査の実施</p>	<p>③ 新しい治療法の開発・研究等</p> <ul style="list-style-type: none"> 各病院の特徴を活かし高度専門医療分野での臨床研究並びに大学等の研究機関及び企業との共同研究の取組 大阪国際がんセンター及び大阪母子医療センターにおいて、がんや母子医療の分野において、診断技法及び治療法の開発並びに臨床応用のための研究への取組 大阪国際がんセンター研究所においては、がん治療創薬研究に貢献、並びに、研究所評価委員会において、研究成果の外部評価 大阪国際がんセンター及び大阪母子医療センターにおいて、がん予防情報センター(大阪母子医療センターにあっては、母子保健情報センター)と病院が連携し、疫学調査の推進 大阪国際がんセンターがん予防情報センターにおいて、各協力病院の全国がん登録の整備並びに登録情報の精度向上 	<p>■各病院における臨床研究並びに共同研究への取組</p> <p>【急性期C】</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床医学倫理審査委員会と治験審査委員会の再編、臨床医学倫理審査委員会を毎月開催【H29年度～】 臨床研究審査委員会の認定承認、開催【H30年7月～】 文部科学省研究機関の指定取得【H30年8月～】 新型コロナウイルス感染症に関する臨床研究の実施【R2年度】 医療センター臨床研究審査委員会の認定承認、開催【R3年2月～】 <p>【はびきのC】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門領域で臨床研究の実施、大学等の研究機関や企業との共同研究 スギ花粉ペプチド含有米を使った臨床研究の取組を推進【H28年度～】 「次世代創薬創生センター」を新設【R2年度】 <p>【精神 C】</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床研究倫理審査委員会の開催 精神科分野の臨床研究を推進するため、「臨床研究費補助金」制度を創設【R1年度】 こころの科学リサーチセンター開設し、研究及び共同研究開始【R2年度】 <p>【国際がんC】</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床研究支援室を設置【H30年度】 認定臨床研究審査委員会の認定承認、開催【H30年7月】 がん細胞培養法iCC技術を用いた抗がん剤の感受性テストの臨床研究開始【H30年度】 大阪大学等との大学との共同研究の実施 <p>【母子 C】</p> <ul style="list-style-type: none"> (再掲)母性小児疾患総合診断解析センターとして原因不明の妊産婦および先天性等小児疾患に対して、系統的に診断・治療法の開発 <p>■外部評価の継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部委員により研究所の研究課題及び研究業績に関する審議を行う研究所評価委員会を毎年度開催 <p>■大阪国際がんセンターにおけるがん対策センターの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村で実施しているがん検診の個別受診勧奨と受診率について、その関連を検討した結果を大阪府に報告 大阪府が設定した「検診の重点受診勧奨対象者層」における調査結果を大阪府と大阪がん循環器病予防センターと共有し、啓発資料として個別受診勧奨を推進 大阪府内で診療されている小児がんの患者家族のニーズ調査を実施し、集計結果を大阪府がん診療連携協議会小児・AYA部会で報告 <p>■大阪母子医療センターにおける母子保健情報センターの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 母子保健指標を府内市町村別に分析して、その結果を母子保健情報センター報告書に掲載し、各市町村等関係機関に配布することで、母子保健疫学データを発信 「にんしんSOS」、「児童虐待防止医療ネットワーク事業」や「妊産婦こころの相談センター」など大阪府からの受託事業の実施 <p>■大阪国際がんセンターがん対策センターにおけるがん登録事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪府がん登録事業の継続実施 院内がん登録資料および地域がん登録資料を活用した、甲状腺癌罹患率の推移等について解析した研究成果を発信
---	--	---

④ 災害や健康危機における医療協力等

- ・ 災害時における基幹災害医療センター及び特定診療災害医療センターとして患者を受入れ
- ・ 医療スタッフの現地派遣による医療救護活動の実施
- ・ 健康危機事象発生時における府域の中核的医療機関として先導的役割

④ 治験の推進

- ・ 治療の効果及び安全性を高めるための積極的な治験の実施並びに新薬の開発

⑤ 災害時における医療協力等

- ・ 大阪急性期・総合医療センターは、基幹災害医療センターとしての活動並びに災害医療訓練や災害医療研修の実施
- ・ 大阪急性期・総合医療センターにおいて全国のDMAT研修修了者を対象にNBC災害及びテロ対策等医療に関する研修(国の委託事業)の実施
- ・ 大阪急性期・総合医療センターにおける大阪府災害医療コントロールセンターにおいて、指揮命令機能の発揮
- ・ 大阪急性期・総合医療センター以外の4病院において、特定診療災害医療センターとして、患者の受入れ、医療機関間の調整、医療機関への支援等の実施
- ・ 大阪精神医療センターは、精神科基幹病院として、中心的な役割並びに、府のDPAT支援を実施
- ・ 新型インフルエンザ発生時の対応を行う体制やその他の感染症の集団発生に備えた受入体制の整備

■ 治験の推進

- ・ 新薬開発への貢献や治療の効果及び安全性を高めるため、積極的に治験を実施

治験実施件数 ※5病院合計

(単位:件)

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
治験実施件数(件)	218	241	262	271	277
治験実施症例数(件)	1,248	1,359	1,521	1,309	1,174
受託研究件数(件)	424	429	408	363	334

■ 大阪急性期・総合医療センターにおける基幹災害医療センターとしての活動

- ・ 熊本地震におけるDMATの派遣【H28年度】
- ・ 大阪府北部地震及び台風21号の際、大阪府へ行政支援のための職員派遣【H30年度】
- ・ 新型コロナウイルス感染症発生に伴うDMATの派遣【R1年度】
- ・ NBC災害・テロ対策研修の実施
- ・ 新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生病院へのDMATの派遣【R2年度】
- ・ 熊本豪雨災害におけるDMATの派遣【R2年度】

■ 大阪精神医療センターにおける精神科基幹病院としての取組

- ・ 熊本地震におけるDPATの派遣【H28年度】
- ・ 新型コロナウイルス感染症発生に伴うDPATの派遣【R1年度】
- ・ DPAT研修の実施やDPAT養成研修への参加など、DPAT隊員養成に貢献

■ その他3センターの取組

- ・ BCPの策定や、災害時を想定した訓練の実施

■ 感染症医療の充実等

- ・ 大阪急性期・総合医療センターにおいて、総合内科による感染症コンサルタント診療の積極的な実施
- ・ 大阪はびきの医療センターにおいて麻疹疑い患者の受入れ体制の整備
- ・ 大阪精神医療センターにおいて大阪府からの要請に基づき、結核患者の入院受入れを実施
- ・ 大阪急性期・総合医療センターにおいて、大阪府からの要請に基づき、新型コロナウイルス感染症対応として、検査対応や入院治療受入対応を実施【R1年度】、院内にコロナ対策本部会議を設置して対応にあたり、地域外来・検査センターや大阪コロナ重症センターの運営を開始【R2年度】
- ・ 大阪はびきの医療センターにおいて、大阪府からの要請に基づき、新型コロナウイルス感染症対応として、検査対応や入院治療受入対応を実施【R1年度～】、コロナトリアージ患者の受入れや、地域外来・検査センター、フォローアップ外来等を設置【R2年度】
- ・ 大阪精神医療センターにおいて、新型コロナウイルス感染症対応の基本指針を策定し、大阪府の要請に基づき、陽性患者を受入れ【R2年度】
- ・ 大阪母子医療センターにおいて、新型コロナウイルス感染症の小児の疑い例・重症例の受入れ体制を整備【R1年度】、感染症科を設置【R2年度】

(2) 診療機能充実のための基盤づくり

① 優秀な医療人材の確保及び育成

- ・ 医師や看護師等、優れた医療人材の確保

- ・ 教育研修機能の充実並びに専門資格の取得等研鑽や専門資格の取得等をサポートする仕組みづくり

- ・ 職員にとって働きやすい環境づくり

- ・ 職員の活躍の場を広げた魅力ある病院づくり

② 施設、医療機器等の計画的な整備

- ・ 施設の改修及び医療機器の計画的な更新及び改修

(2) 診療機能充実のための基盤づくり

① 優れた医療スタッフの確保及び育成

- ・ 医師や看護師をはじめとした優れた医療人材の確保

- ・ 教育研修機能の充実並びに専門資格の取得等研鑽をサポートする仕組みの構築

- ・ 女性医療スタッフが働きやすい職場環境の改善

② 施設及び高度医療機器の計画的な整備

- ・ 高度医療機器の整備について、稼働の向上並びに調達コストの抑制

- ・ 大規模施設設備改修計画の計画的な実施

■医師の確保

- ・ 医師やレジデントの確保のため、大学病院等への積極的な働きかけを実施
- ・ ホームページによる公募や病院見学会の実施、ホームページ等に研修プログラム内容を掲載するなど、採用PR等の強化

■看護師の確保

- ・ 病院説明会や学内説明会、ホームページ等にて教育体制等の効果的なPRを実施することにより、多くの受験申込者を確保
- ・ 採用試験の回数増など、計画的な採用選考を実施
- ・ 看護実習受け入れ校へ教育体制等をPRすることにより多くの受験申込者を確保

■医療技術者の確保

- ・ 優秀な人材確保のため、採用選考時期の工夫や、就職説明会や大学学内就職説明会に参加

(単位:人)

区分	H29年3月1日 時点現員数	H30年3月1日 時点現員数	H31年3月1日 時点現員数	R2年3月1日 時点現員数	R3年3月1日 時点現員数
医師	489	511	522	526	534
看護師	2,473	2,559	2,639	2,673	2,741
医療技術職	582	597	630	636	639

■資格取得の推進

- ・ 長期自主研修支援制度を活用した、資格の取得
- ・ 大阪国際がんセンターにおいて、大阪大学医学部の専攻プログラムに協力するなど、専門医の養成に貢献
- ・ 大阪母子医療センターにおいて、看護部研修プログラムをレベル別に設定、段階的に専門性を高める研修を実施
- ・ 各病院において、医療技術職についての、学会への参加促進や専門研修への参加を促進

■職場環境の改善

- ・ チーム医療の推進や、医師の負担を軽減するために、医師事務作業補助者の配置を継続
- ・ 育児のための短時間勤務制度を運用するなど、女性医療スタッフのライフスタイルやライフステージに応じた働き方を支援
- ・ 育児短時間勤務形態の追加や休日の代休指定単位の変更を実施

■高度医療機器の整備

- ・ 費用対効果を勘案した整備の実施、ベンチマークを用いた調達コストの抑制

CT・MRI・アンギオ・RI・リニアック・PET-CT 稼働状況(延患者数) ※5病院合計

(単位:人)

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
CT	72,893	80,074	84,829	89,520	83,650
MRI	21,282	24,994	25,856	25,755	24,083
アンギオ	6,047	6,455	6,314	6,514	6,039
RI	5,328	5,184	4,878	4,679	4,069
リニアック	44,136	51,982	50,739	50,491	46,453
PET-CT(急性期Cのみ)	650	689	543	738	709

■大規模施設設備改修の実施

- ・ 毎年度各病院へ改修計画についてヒアリングを行うなど、計画的な整備改修を実施

(3) 府域の医療水準の向上への貢献

① 地域の医療機関等との連携

- ・ 紹介及び逆紹介の推進
- ・ 医師等の派遣による支援や研修会への協力

- ・ 高度医療機器の共同利用やICT(情報通信技術を用いる。)の活用
- ・ 府域の医療水準の向上に貢献する取組推進

② 府域の医療従事者育成への貢献

- ・ 臨床研修医及びレジデントの積極的な受入れ
- ・ 他の医療機関等からの研修や実習等への積極的な協力

(3) 府域の医療水準の向上

① 地域医療への貢献

- ・ ネットワーク型の連携システムの構築や紹介率及び逆紹介率の向上
- ・ 研修会への講師派遣や医師の地域医療機関での診療派遣の実施

- ・ 地域医療機関からの高度医療機器の共同利用推進

② 府域の医療従事者育成への貢献

- ・ 教育研修センターの積極的活用や研修プログラムの開発
- ・ 臨床研修医及びレジデントの受入れ並びに地域医療機関からの医療スタッフの受入れ

- ・ 看護師、薬剤師等の医療スタッフの実習受入れ

■地域医療への貢献

- ・ 各病院において導入している地域医療連携システム等ICTを活用した、地域医療連携の推進
- ・ 大阪母子医療センターにおいて、和泉市と「親子の健康と健やかな成育支援に関する連携協定」を締結【R2年度】
- ・ 病診連携の講演会や研修会の定期的な実施
- ・ 地域連携パスの運用や、医師会との症例検討会等を実施
- ・ 大阪精神医療センターにおいて、地域連携推進室を設置し、医療機関や行政機関からの入院相談依頼の迅速な対応の実施【H30年度】

- ・ 紹介率・逆紹介率の状況

(単位:%)

センター名	区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
急性期C	紹介率	87.3	87.8	86.9	86.3	80.2
	逆紹介率	86.8	86.4	72.0	81.1	93.4
はびきのC	紹介率	56.5	59.1	65.9	68.0	72.5
	逆紹介率	62.8	67.2	66.0	67.5	81.8
精神C	紹介率	37.9	39.8	36.4	39.3	39.6
	逆紹介率	39.0	37.3	41.7	42.8	41.9
国際がんC	紹介率	97.1	86.7	85.0	85.2	79.8
	逆紹介率	129.5	89.6	95.8	96.1	107.2
母子C	紹介率	93.5	94.4	95.3	93.6	94.2
	逆紹介率	39.0	37.4	35.2	36.4	40.9

■高度医療機器の共同利用、開放病床の利用促進

- ・ 大阪急性期・総合医療センター及び大阪はびきの医療センターにおいて、高度医療機器の共同利用並びに開放病床の利用拡大に向けた取組の実施

■臨床研修医及びレジデントの受入れ

- ・ 各病院において、積極的にレジデント等を受入れ
- ・ 大阪母子医療センターにおいて、「産科シニアフェロー制度」により、周産期専門医の取得を目標とした他病院のレジデントの研修受入れ

(単位:人)

区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
臨床研修医	48	47	50	45	46
協力型受入れ(外数)	43	40	36	48	34
レジデント	148	152	185	182	176

■看護学生等の受入れ

- ・ 各病院において、積極的に看護学生実習を受入れ

(単位:人)

センター名	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
急性期C	710	822	762	786	456
はびきのC	355	383	422	405	122
精神C	667	604	628	616	74
国際がんC	436	488	390	438	326
母子C	888	896	767	821	952

③ 府民への保健医療情報の提供及び発信並びに普及啓発

- ・ 府が進める健康医療施策に係る啓発、ホームページの活用、公開講座の開催等、府民への保健医療情報の提供及び発信並びに普及啓発の積極的な推進

(4) 安心して信頼できる質の高い医療の提供

① 医療安全対策等の徹底

- ・ 医療安全対策の徹底及び取組内容の積極的な公表

- ・ 院内感染防止の確実な取組推進

② 医療の標準化と最適な医療の提供

- ・ クリニカルパスの活用による、最適な医療を提供

③ 府民への保健医療情報の提供・発信

- ・ PR方策や情報の活用等の検討、情報発信の推進
- ・ 保健医療情報や臨床評価指標等について、ホームページによる積極的な情報発信
- ・ 府民を対象とした公開講座を開催

(4) より安心して信頼できる質の高い医療の提供

① 医療安全対策等の徹底

- ・ 医療安全管理体制の充実並びに、医療事故に関する情報の収集及び分析による医療安全対策の徹底

- ・ 医療事故の公表基準の適切な運用、医療に関する透明性の向上

- ・ 院内感染対策の充実

- ・ 医薬品及び医療機器に関する安全情報の的確な提供

② 医療の標準化と最適な医療の提供

- ・ EBMの提供及び医療の効率化の両面を踏まえたクリニカルパスの適用及び見直しの実施による質の高い効果的な医療の提供

- ・ 蓄積された診療データを分析し、経年変化及び他の医療機関との比較

■各病院の専門医療に関する情報や保健医療情報等の積極的な発信

- ・ 各病院において、Facebookページの開設など、SNSを活用した広報活動を実施
- ・ 臨床評価指標については、ホームページに掲載
- ・ 各病院において公開講座を開催
- ・ 各病院のホームページに疾病や健康に関する情報を公開

■医療安全に関する取組

- ・ 病院間の医療事故等の情報交換・共有化のため、各病院の医療安全管理者による会議の定期的な開催
- ・ 医療コンフリクト・マネジメントの概念や知識、理論や技法を学び、実際のメディエーションの場面で活用するスキルを習得するため、5病院合同の医療安全研修会を実施
- ・ 医療事故公表基準に基づき、各病院のホームページにて「医療事故の状況」を公表

■院内感染防止に関する取組

- ・ 各病院において、院内感染防止対策委員会の開催ならびにICT(感染制御チーム)ラウンドの定期的な実施、各種感染マニュアルの見直し等
- ・ 大阪急性期・総合医療センター及び大阪はびきの医療センターにおいて、新型コロナウイルス感染症対応時に、多職種対策会議を頻回に実施し迅速な対応を協議【R1年度～】
- ・ 大阪精神医療センター、大阪国際がんセンター及び大阪母子医療センターにおいては、新型コロナウイルス感染症に対する基本方針の策定や対策チームを設置【R1年度～】

■医薬品及び医療機器に関する安全情報の提供

- ・ 各病院において、医薬品・医療機器に関する安全情報の入手に努め、院内LANへの掲載やカンファレンスなどで迅速に情報を発信、周知

■クリニカルパスの適用

- ・ パスの見直しや、新たなパスの作成など、適正かつ効率的な運用を実施

クリニカルパス実績

センター名	区分	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
急性期C	適用率(%)	51.6	53.0	57.9	56.6	51.3
	種類数	608	569	442	408	401
はびきのC	適用率(%)	62.2	63.1	65.7	63.8	64.2
	種類数	295	273	299	301	243
国際がんC	適用率(%)	75.0	78.2	81.9	74.4	78.7
	種類数	330	385	383	360	354
母子C	適用率(%)	54.0	56.1	58.0	60.4	62.5
	種類数	204	210	221	251	287

■診療データの収集・分析

- ・ 各病院において、DPC分析ソフトの活用やベンチマークの実施による診療データの収集・分析を実施

<p>③ 患者中心の医療の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インフォームド・コンセントの徹底 ・ セカンドオピニオンや医療相談等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第三者機関等からの評価に、基づく医療の質の確保・向上 <p>③ 患者中心の医療の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者の基本的な権利を尊重することを定めた患者の権利に関する宣言等を職員に周知徹底、人権研修の継続実施 ・ インフォームド・コンセントの一層の徹底 ・ セカンドオピニオンや、がん相談支援センターにおける相談支援の充実 ・ 個々の患者の希望を尊重した最適な医療の提供、新しい医療技術の導入やチーム医療及び各患者中心の医療の推進 ・ 栄養管理の充実、選択メニューの拡充 	<p>■病院機能評価の受審</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪急性期・総合医療センター、大阪国際がんセンター、大阪母子医療センター【H30年度受審】 大阪はびきの医療センター【R1年度受審】 大阪精神医療センター【R2年度受審】 ・ 大阪急性期・総合医療センターにおいて、臨床検査室でISO15189認定取得【H31年2月】 ・ 大阪急性期・総合医療センターにおいて、全診療科、部門でのISO9001認証取得【R1年9月】 ・ 大阪国際がんセンターにおいて、臨床検査室でISO15189の認定審査を受審【R3年2月】 <p>■「患者の権利に関する宣言」・人権研修の実施等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「患者の権利に関する宣言」について、職員への周知徹底とともに、ホームページや院内掲示板へ掲載することで患者等にも周知 ・ 各病院の役割に応じた人権に関する研修、本部とセンター共催による研修等を実施 ・ 大阪母子医療センターにおいて、小児版の患者の権利に関する宣言「母子センター子ども憲章」を策定 <p>■インフォームド・コンセントの実施状況の点検と充実のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各病院においてインフォームド・コンセントの徹底に努め、また説明文書及び同意文書の点検を実施 <p>■セカンドオピニオンや、がん相談支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪精神医療センター以外の4病院において、各病院のホームページでセカンドオピニオンのPRを実施 ・ 大阪急性期・総合医療センター、大阪国際がんセンターにおいて就労支援相談を実施するなど各病院にて幅広くがん相談に対応 ・ 小児がん専門の相談窓口の設置、長期入院児の教育面の支援のため院内学級（大阪府立羽曳野支援学校の分教室）を設置 <p>■患者のQOL(生活の質)向上の主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各病院において、チーム医療の推進や、患者の希望に応えるための取組を実施 <p>■医薬品等安全確保の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各病院において、病棟薬剤業務ならびに薬剤管理指導業務など、医薬品の適正使用のための患者指導を実施 <p>服薬指導件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>センター名</th> <th>H28年度実績</th> <th>H29年度実績</th> <th>H30年度実績</th> <th>R1年度実績</th> <th>R2年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>急性期C</td> <td>18,092</td> <td>18,567</td> <td>19,385</td> <td>21,885</td> <td>18,384</td> </tr> <tr> <td>はびきのC</td> <td>10,117</td> <td>9,797</td> <td>10,704</td> <td>10,869</td> <td>10,896</td> </tr> <tr> <td>精神C</td> <td>2,436</td> <td>2,189</td> <td>2,947</td> <td>3,843</td> <td>3,674</td> </tr> <tr> <td>国際がんC</td> <td>8,718</td> <td>9,197</td> <td>10,199</td> <td>11,037</td> <td>10,675</td> </tr> <tr> <td>母子C</td> <td>5,348</td> <td>4,516</td> <td>4,613</td> <td>4,980</td> <td>4,873</td> </tr> </tbody> </table> <p>■病院給食の充実への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各病院において、栄養サポートチーム(NST)を中心とした活動等による病院給食の充実のための取組を実施 	センター名	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績	急性期C	18,092	18,567	19,385	21,885	18,384	はびきのC	10,117	9,797	10,704	10,869	10,896	精神C	2,436	2,189	2,947	3,843	3,674	国際がんC	8,718	9,197	10,199	11,037	10,675	母子C	5,348	4,516	4,613	4,980	4,873
センター名	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績																																	
急性期C	18,092	18,567	19,385	21,885	18,384																																	
はびきのC	10,117	9,797	10,704	10,869	10,896																																	
精神C	2,436	2,189	2,947	3,843	3,674																																	
国際がんC	8,718	9,197	10,199	11,037	10,675																																	
母子C	5,348	4,516	4,613	4,980	4,873																																	

2 患者等の満足度向上

(1)ホスピタリティの向上

- ・ 職員の接客技術の向上に努め、更なるサービスの充実を図る

- ・ 院内の快適性を確保するため施設及び設備の改修を図る

(2)待ち時間の改善による患者負担の軽減

- ・ 待ち時間の改善に努め、患者等の負担感の軽減を図る

2 患者・府民の満足度向上

(1)ホスピタリティの向上

- ・ 接客に関するマニュアルの整備や定期的な研修、患者等向け案内冊子等の改善など、接客向上に向けた取組推進

- ・ NPOの活動と連携、協働した、各病院における院内見学及び意見交換、意見箱等を通じた患者及び府民の生の声を把握など、サービス向上の取組を推進

- ・ 病室の個室化、待合室、トイレ、浴室等の改修及び補修の計画的実施、患者のプライバシー確保に配慮した院内環境の整備

- ・ 患者ニーズの高い店舗の誘致等、来院者の利便性向上

(2) 待ち時間及び検査・手術待ちの改善

③ 外来待ち時間の対応

- ・ 待ち時間の実態調査及び改善活動
- ・ 体感待ち時間ゼロを目指した取組

■患者満足度調査の実施

- ・ 外来だけでなく、入院についても患者満足度調査を実施【H29年度～】

全体としてこの病院に満足している割合(入院) (単位:%)

センター名	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
急性期C	—	76.0	89.2	87.7	91.2
はびきのC	—	95.3	96.7	97.3	96.1
精神C	—	75.9	72.1	80.3	77.2
国際がんC	—	92.6	91.2	97.1	95.8
母子C	—	75.9	95.8	89.8	91.6

全体としてこの病院に満足している割合(外来) (単位:%)

センター名	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
急性期C	72.4	70.6	68.2	70.1	78.6
はびきのC	86.0	82.3	85.0	81.6	85.2
精神C	86.1	79.9	84.9	81.6	83.7
国際がんC	87.8	84.3	85.5	87.8	90.6
母子C	87.0	86.5	83.6	86.7	82.2

■患者・府民の満足度向上のための取組

- ・ 職員の接客向上のため、各病院においてマニュアルを整備
- ・ 外部講師や「接客トレーナー養成研修会」に参加した職員による研修実施
- ・ 各病院において、院内でのコンサートやクリスマス等のイベントを充実
- ・ 患者・府民を対象としたセミナーのWEB配信を実施【R2年度】

■NPOの院内見学等

- ・ NPOによる院内見学と意見交換会の実施
- ・ 患者サービスについて先進的・模範的な取組を行っている他病院への視察

■院内環境の整備

- ・ 各病院において、計画的に院内環境整備を実施

■利便性の向上

- ・ 大阪国際がんセンターの敷地内に、患者交流施設・保険薬局・トレーニングジムからなる患者交流棟を整備【H30年度】

■外来待ち時間の改善

- ・ 大阪急性期・総合医療センターにおける5分単位でのピンポイント予約の継続
- ・ 大阪はびきの医療センターにおけるスマートフォンによる診察待ち状況確認システムの運用【H29年度～】
- ・ 大阪精神医療センターにおける成人外来での書籍の設置や健康管理コーナーの設置、大阪母子医療センターにおける患者専用の食事スペースの設置【H29年度～】
- ・ 大阪国際がんセンターにおける携帯電話による呼び出しサービスの導入【H29年度～】、後払いクレジット決済システムの運用を開始【外来:R1年度、入院:R2年度】
- ・ 大阪母子医療センターにおけるスマートフォンによる診察待ち状況確認システムの運用【R1年度～】
- ・ 大阪国際がんセンター以外の全病院において、後払いクレジット決済システムを導入【R2年度】

(3) NPOやボランティアとの協働

- ・ NPOやボランティアの協力を得て、サービス向上に努める

② 検査待ち・手術待ちの改善

- ・ 検査待ちの改善を図るための取組
- ・ CT検査、MRI検査の曜日、時間帯の見直し
- ・ 医師等の配置並びに外来、病棟及び手術室の運用改善等手術実施体制の整備による手術件数の増加

(3) ボランティア等との協働

- ・ 通訳ボランティア等の多様なボランティアの参画を通じた療養環境の向上
- ・ 地域におけるボランティア活動やNPO活動との連携・協力

■検査の実施状況

- ・ 大阪急性期・総合医療センターにおいて、採血室やエコー検査ブースの検査技師の増員、エコー検査室のブース増室【H30年度】、採血室更新工事によるブース増設【R2年度】
- ・ 大阪はびきの医療センターにおいて、待ち時間短縮のために採血ブースを増室【R2年度】
- ・ 大阪母子医療センターにおけるスマートフォンを利用した採血順番お知らせシステムの開始【R2年度～】

■CT・MRI検査の実施状況

- ・ 大阪国際がんセンターにおいて、検査待ち時間の短縮に向け、検査予約枠の曜日や時間の調整
- ・ 大阪母子医療センターにおいて、緊急検査にも即時即日対応できるよう取組を推進

■手術の実施状況

- ・ 手術枠の見直しや、麻酔科医の確保などにより、各病院において手術件数が増加

センター名	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
急性期C	8,262	8,398	8,600	10,013	7,818
はびきのC	2,003	2,460	2,464	2,549	1,993
国際がんC	3,390	3,929	4,014	4,204	4,041
母子C	4,421	4,447	4,239	4,291	3,741

■多様なボランティアの受入れ

- ・ 手話通訳、通訳ボランティア制度についてホームページ等で周知し、利用促進及びボランティア登録者の確保
- ・ 各病院において、患者の癒しにつながるアート活動や演奏など多様なボランティアの参画を通じた療養環境の向上

【法人の自己評価及びその理由】

事業年度評価結果					中期目標期間の評価
H28	H29	H30	R1	R2 (自己評価)	
A	A	A	A	A	A

毎年度の業務実績評価がA評価であることから、中期目標全体の評価もA評価とした。

【今後の取組】

第4期中期目標期間においても、高度専門医療の提供及び医療水準の向上、患者・府民の満足度向上に引き続き取り組む。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項		事業年度評価結果					中期目標期間評価
		H28	H29	H30	R1	R2	
中期目標	中期計画	A	A	A	A	A	A
<p>1 自律性・機動性の高い組織体制の確立</p> <p>(1) 組織マネジメントの強化</p> <p>① 高い専門性を持った人材の育成及び確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務部門における高い専門性を持った職員の育成及び確保 府派遣職員から機構採用職員への切替え <p>② 人事評価制度及び給与制度の適正な運用</p> <ul style="list-style-type: none"> 公正で客観的な人事評価制度及び適正な評価に基づく給与制度の運用 <p>(2) 診療体制の強化及び人員配置の弾力化</p> <ul style="list-style-type: none"> 勤務形態の多様化や各病院間の協力体制の整備、診療科の再編や職員の弾力的な配置 	<p>1 自立性の高い組織体制の確立</p> <p>(1) 組織マネジメントの強化</p> <p>① 法人ガバナンスの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 理事会や経営会議等の運営に加え、病院ごとの個別協議による各病院の経営課題の共有化 各病院間の人事配置の流動化や本部・病院の機能分担の見直し等による法人としての組織力の強化 内部統制や制度構築等本部機能を強化による戦略的・効率的な経営 <p>② 人材の育成・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 府派遣職員の計画的な機構採用職員への切り替え、病院経営に係る専門性や経営感覚を有する人材育成 計画的な採用、優れた人材の適材適所な配置 <p>③ 人事評価制度・給与制度の適切な運用</p> <ul style="list-style-type: none"> 公正で客観的な人事評価制度の運用、業績や資質及び能力を評価した給与へ反映 <p>④ 働きやすい職場環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスの配慮 職員ポータルサイトを活用した情報の共有化 <p>(2) 診療体制の強化及び人員配置の弾力化</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療科の変更、医師等の配置の弾力化、多様な専門職の活用 	<p>[実績]</p> <p>■経営管理体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 理事会や経営会議をはじめとした各種会議を通じ、医療面や経営面における課題の洗い出し・改善等に努め、理事長のリーダーシップのもと柔軟な組織運営 各病院において、自院の経営管理や提供する医療内容等に係る検討、その他病院運営に係る重要事項の意思決定を行う運営会議(幹部会議)を開催 <p>■組織力の強化に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 良質な医療サービスを継続的に提供するため、必要に応じた職員の定数を増員あるいは減員、各職員の職務遂行能力等を考慮した人事異動の実施など、効果的な人員配置を推進 事務部門の強化として、個々の職員の意欲や特性を重視したチャレンジコースを実施 <p>■人事評価制度の運用</p> <ul style="list-style-type: none"> 病院実態に対応できるように必要な改善を行いながら、法人の人事評価制度を適正に運用 課長級以上の職員に対して、病院の業績向上に向けたインセンティブとなるよう、病院業績を勤勉手当に反映させる仕組みを導入【R1年度～】 <p>■職場環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 育児のための短時間勤務制度を運用 育児短時間勤務形態の追加及び休日の代休指定単位の変更の実施 採用のホームページに子育て中の医師へ向けた支援制度等の情報掲載 「医師労働時間短縮計画」策定に向けた検討を実施【R1年度～】 <p>■診療科・組織体制の再編</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪急性期・総合医療センターにおいて、血液・腫瘍内科の設置【H28年度】、新生児科を新設するとともに、産婦人科を産科と婦人科に分科【H30年度】 大阪はびきの医療センターにおいて、消化器・乳腺外科を分科し、消化器外科と乳腺外科を設置【H28年度】、耳鼻咽喉科の設置【H29年度】、消化器内科の再開【H30年度】、泌尿器科外来及び小児循環器外来を設置【R2年度】 大阪国際がんセンターにおいて、「感染症内科」「栄養腫瘍科」「腫瘍皮膚科」を設置【H28年度】 大阪母子医療センターにおいて、感染症科および産科麻酔部門を設置【R2年度】 <p>■病院間での協力体制</p> <ul style="list-style-type: none"> 各病院において、医師・医療技術職の兼務による協力体制・研修体制の整備 					

(3) コンプライアンスの徹底

- ・ 法令を遵守、行動規範と倫理を確立
- ・ 個人情報の保護及び情報公開の取扱いについて適切な対応
- ・ 情報のセキュリティ対策強化
- ・ 業務執行におけるコンプライアンス徹底の取組推進

2 業務運営の改善・効率化

(1) 効率的かつ効果的な業務運営及び業務プロセスの改善

- ・ PDCAサイクルによる目標管理の徹底

(3) コンプライアンスの徹底

- ・ 内部規律の策定や倫理委員会によるチェック、意識啓発のための取組の定期的・継続的な実施
- ・ 監査等を実施、外部の監査等第三者による評価、職員のための相談機能の充実
- ・ マイナンバー制度導入に伴う、個人情報の取り扱いについての管理体制の強化

2 経営基盤の安定化

(1) 効率的・効果的な業務運営・業務プロセスの改善

① 自立的な経営の管理

- ・ 病院別の実施計画を作成した各病院の自律的な取組経営分析や、他の医療機関との比較による機動的及び戦略的な運営
- ・ 病院経営への参画意識の醸成、自発的な経営改善や業務の効率化の取組推進

区分	センター名	R2年度目標
経常収支比率 (%)	急性期C	100.4
	はびきのC	103.2
	精神C	102.9
	国際がんC	100.3
	母子C	100.6
	法人全体	99.8
医業収支比率 (%)	急性期C	98.2
	はびきのC	92.5
	精神C	71.1
	国際がんC	94.4
	母子C	91.1
	法人全体	92.4

■倫理委員会の開催

- ・ 各病院において、外部委員も参画する倫理委員会の定期的な開催

■監査等の実施

- ・ 目的に応じて監事監査、会計監査、内部監査を実施し、第三者による評価として大阪府監査等による評価を引き続き実施

■相談機能の充実

- ・ コンプライアンスに関する通報窓口を設置【H28年度～】

■個人情報の取り扱いに関する研修

- ・ 個人情報保護、個人情報の漏えいや流出等のコンプライアンス上のリスクを学ぶことを目的としてコンプライアンス研修を実施

■財務状況の把握と改善の取組

- ・ 財務会計システムを活用しながら、各病院毎に月次報告を作成し、現状・課題の把握及び改善
- ・ 原価計算システムやDPC分析ソフトなどを利用した経営分析を実施
- ・ 大阪はびきの医療センター及び大阪精神医療センターにおいて、経営改善計画に基づき、経営改善の取組を推進

【資金収支の状況(法人全体)】※資金収支ベース

(単位：億円)

	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
収入	1,119.4	914.4	926.1	960.6	1,012.5
うち医業収入	712.2	765.8	808.8	841.9	795.1
支出	1,115.1	892.3	924.0	955.9	970.5
うち医業支出	744.2	777.8	826.3	860.0	863.6
うち資本支出	358.5	100.3	80.2	75.9	93.2
資金収支差	4.2	22.1	2.2	4.7	42.0

※令和2年度実績には大阪コロナ重症センターの実績を含まない

【経常収支比率】※損益ベース

(単位：%)

センター名	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
急性期C	104.4	100.6	100.7	101.3	110.6
はびきのC	98.5	100.0	102.6	99.5	107.7
精神C	103.3	101.8	104.1	104.0	104.2
国際がんC	95.5	99.5	99.0	99.4	98.0
母子C	102.8	102.9	99.0	99.6	101.0
法人全体	99.8	99.7	99.4	99.4	103.4

※R2年度実績には大阪コロナ重症センターの実績は含まない

【医業収支比率】※損益ベース

(単位：%)

センター名	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
急性期C	99.6	97.4	98.1	99.5	92.9
はびきのC	88.1	89.7	93.1	91.0	80.1
精神C	70.4	69.5	73.1	73.7	66.4
国際がんC	92.3	94.3	94.5	95.6	94.3
母子C	93.3	93.6	90.2	91.3	91.0
法人全体	91.9	92.1	92.5	93.4	88.8

※R2年度実績には大阪コロナ重症センターの実績は含まない

(2) 収入の確保

- ・ 収入確保につながる数値目標を適切に設定し、達成に向けた取組推進
- ・ 診療単価向上のための取組
- ・ 診療報酬の請求漏れの防止や未収金対策の強化
- ・ 外部資金の獲得等による、新たな収入の確保

② 柔軟性のある予算編成及び予算執行の弾力化

- ・ 柔軟性のある予算を編成並びに弾力的な予算執行

(2) 収入の確保

① 新患者の確保及び病床の効率的運用

- ・ 地域連携の強化・充実による新入院患者の確保と退院支援
- ・ ベッドコントロールの一元管理のもと、病床管理の効率的な運用

区分	センター名	R2年度目標
病床利用率 (%)	急性期C	94.5
	はびきのC	89.3
	精神C	88.3
	国際がんC	95.0
	母子C	88.0
新入院患者数 (人)	急性期C	19,600
	はびきのC	10,160
	精神C	1,030
	国際がんC	13,195
	母子C	9,680

② 診療単価の向上

- ・ 適切な施設基準の取得
- ・ 診療報酬請求の精度向上の取組と診療報酬に関する研修の実施

■財源繰越制度の創設

- ・ 自己資金投資財源ルールによる投資について、引き続き運用

■新患者の確保及び病床の効率的運用

- ・ 計画的な地域医療機関への訪問や、地域の医療機関との勉強会や意見交換会等の実施による連携強化
- ・ 地域連携システム等を活用した連携登録医の増加
- ・ ベッドコントロールセンターによる、病床の一元管理や、病棟のベッドコントロール権限を看護師長に統一する等、効率的な運用を実施

【病床利用率】

(単位: %)

センター名	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
急性期C	91.9	90.8	87.7	87.6	71.1
はびきのC	81.6	81.6	82.1	79.2	62.6
精神C	85.1	83.8	86.8	86.9	79.0
国際がんC	87.2	88.6	88.8	88.4	86.0
母子C	90.9	91.7	89.4	91.1	84.1

※急性期CのR2年度実績には大阪コロナ重症センターの実績は含まない

【新入院患者数】

(単位: 人)

センター名	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
急性期C	20,010	20,483	22,175	23,649	18,440
はびきのC	9,183	9,862	10,313	10,266	8,449
精神C	890	955	1,111	1,135	1,177
国際がんC	11,711	13,226	13,925	14,503	14,597
母子C	10,124	10,812	10,813	10,998	10,134

※急性期CのR2年度実績には大阪コロナ重症センターの実績は含まない

【平均在院日数】

(単位: 日)

センター名	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
急性期C	11.6	11.2	10.7	10.4	11.0
はびきのC	12.2	11.3	10.9	10.6	10.1
精神C	163.1	150.9	133.7	130.7	113.3
国際がんC	12.4	11.0	10.5	10.0	9.6
母子C	10.1	9.5	9.4	9.4	9.5

※急性期CのR2年度実績には大阪コロナ重症センターの実績は含まない

■診療報酬単価の向上に対する取組

- ・ 診療・看護体制の充実による上位施設基準の積極的な取得
- ・ 診療報酬改定への迅速な対応、新設された施設基準の取得
- ・ 診療報酬事務等の専門研修を開催

(3) 費用の抑制

- ・ 給与水準や職員配置の適正化等による人件費の適正化

③ 未収金対策及び資産の活用

- ・ 未収金滞納発生の未然防止、早期回収

- ・ 土地及び建物の有効な活用策検討

③ 医療資源の活用等

- ・ 研究活動における外部資金の獲得、自由診療単価の適宜見直し

(3) 費用の抑制

① 給与費の適正化

- ・ 職種による需給関係や給与費比率を勘案した柔軟な職員配置の増減の実施

区分	センター名	R2年度目標
給与費比率 (%)	急性期C	46.9
	はびきのC	59.6
	精神C	93.0
	国際がんC	46.2
	母子C	58.2
	法人全体	53.1

② 材料費の縮減

- ・ SPDの効果的な活用や同種同効品への集約化

区分	センター名	R2年度目標
材料費比率 (%)	急性期C	30.4
	はびきのC	20.7
	精神C	6.7
	国際がんC	32.2
	母子C	22.3
	法人全体	27.1

■未収金対策

- ・ 患者未収金発生の未然防止策として、入院時の概算費用の提示や、高額療養費制度等の説明を実施
- ・ 未収金が発生した患者に対して、請求書の再発送や電話等による督促と合わせ、弁護士法人への債権回収委託を実施

患者請求額全体に対する回収率 (単位: %)

	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
法人全体	98.4	98.6	98.5	98.7	98.6

備考 当該年度の患者に対する請求額のうち、年度内に回収ができた割合を示す。

■資産の効果的な運用

- ・ 大阪はびきの医療センターの未利用の公舎の土地について民間業者へ売却【R1年度】、土地を有効活用するため、新病院と連携した施設を運営する事業者を選定【R2年度】

■医療資源の活用等

- ・ ポータルサイトに外部研究費等の公募情報を掲載し、外部資金獲得を促進
- ・ 先進医療の申請や自由診療単価の見直しを実施
- ・ 大阪精神医療センター及び大阪母子医療センターにおいて、書籍の出版

■給与費の適正化

- ・ 費用対効果等を踏まえた職員配置の実施
- ・ 総長・院長・病院長に年俸制を導入【H29年度～】

【給与費比率】 ※損益ベース

(単位: %)

センター名	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
急性期C	46.2	48.1	47.2	45.8	51.2
はびきのC	61.4	61.0	58.0	58.3	68.7
精神C	94.9	96.3	91.7	90.9	102.9
国際がんC	43.7	40.3	38.3	37.7	38.2
母子C	55.4	55.8	58.9	58.6	59.4
法人全体	52.2	51.6	50.5	49.5	53.1

※R2年度実績には大阪コロナ重症センターの実績は含まない

■材料費の縮減

- ・ SPDによる医薬品・診療材料の共同購入による材料費の削減

【材料費比率】 ※損益ベース

(単位: %)

センター名	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
急性期C	31.5	32.0	32.0	32.1	31.6
はびきのC	23.2	23.0	23.9	25.1	24.7
精神C	6.5	6.7	6.6	6.6	7.0
国際がんC	39.1	37.5	39.4	39.2	39.4
母子C	24.3	23.8	24.4	23.3	23.8
法人全体	29.9	29.8	30.7	30.8	30.9

※R2年度実績には大阪コロナ重症センターの実績は含まない

・ 後発医薬品の利用促進

・ 後発医薬品の使用促進

■後発医薬品の採用促進

・ 法人全体で後発医薬品の採用を促進

【後発医薬品採用率】 ※数量ベース

(単位:%)

センター名	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績	R2年度実績
急性期C	76.1	81.1	85.9	87.4	88.7
はびきのC	70.1	77.9	84.9	84.7	86.6
精神C	67.9	67.5	73.8	78.1	79.9
国際がんC	77.3	81.0	88.0	89.3	90.0
母子C	86.5	89.3	88.9	87.9	88.5

③ 経費の節減

・ 多様な契約手法の活用による経費節減

■契約事務の円滑な実施

・ 一般競争入札を原則として適正に契約相手方を選定、また、多様な入札契約方法として総合評価方式や複合契約の実施

・ 国際入札に対応した入札の実施

【法人の自己評価及びその理由】

事業年度評価結果					中期目標期間の 評価
H28	H29	H30	R1	R2 (自己評価)	
A	A	A	A	A	A

毎年度の業務実績評価がA評価であることから、中期目標全体の評価もA評価とした。

【今後の取組】

第4期中期目標期間においても、組織体制の確立及び経営基盤の安定化に引き続き取り組む。